

1号富士由比バイパス舗装修繕工事での施工管理 及び安全管理について

(社)静岡県土木施工管理技士会
株式会社 橋本組
現場代理人
渡 邊 秀 樹
Hideki Watanabe

1. はじめに

経年劣化による舗装修繕工事を、1号富士由比バイパスの清水区由比から蒲原東地区にかけて約6kmの区間を5工区に分割し同時施工する工事のうち由比地区から蒲原西地区までの舗装修繕工事を行った。

周辺は側道や幹線道路が少なく大型車両を含め交通量が多く、信号等がないため走行速度も速い状況であった。

工事概要

- (1) 工 事 名：平成20年度1号町屋原地区舗装修繕工事
- (2) 発 注 者：中部地方整備局 静岡国道事務所
- (3) 工事場所：静岡県静岡市清水区蒲原神沢～静岡県静岡市清水区由比
- (4) 工 期：平成21年3月3日～平成21年9月30日

2. 現場における問題点

- ① 規制区間が長く、交通量が多いため一般車両への安全対策
- ② 側道や幹線道路が少ないため道路利用者への影響を抑制する必要から規制期間設定
- ③ 5工区同時施工であるが施工業者が別々のため施工中の連絡調整

- ④ 路面切削から表層舗設までの急速施工のため規制時間の確保

3. 工夫・改善点と適用結果

- ① 周辺広報および道路標識、ラジオによる広報を使用し工事箇所及び交通規制時間の周知を計り、施工前からの事前告知を徹底した。

また、実走行速度が速いため規制箇所のテーパー長を最低100mとし、規制先端の規制車(LED 掲示板搭載車)を4km手前から配置し、施工順序も路肩幅員に余裕のある走行車線を利用して、追越し車線を先行して施工することにより走行車線施工時における一般車両走行帯の幅員を確保した。



写真-1 規制車配置状況

② 工区によって施工面積が異なるため、施工量の多い工区は施工班を2組とし規制期間の短縮を図り通常施工量で実施した場合の約半分である予備期間を含め約6週間の規制期間に設定できた。

また、準備測量日数短縮のため路面性状調査車及び非破壊試験による舗装厚試験機を導入した。



写真-2 事前調査状況



写真-3 事前調査状況

③ 工期当初から関連する5業者にて安全連絡協議会を設置し、基本方針を統一すると共に、連絡調整方法や施工中の非常時対策などの検討を

行った。

また、施工期間中は施工開始前の18時00分より日々の連絡調整会議を実施することにより施工箇所の変更など連絡調整を順次実施した。

④ 交通規制の時間帯については事前路面調査時に21時からの交通規制と20時からの交通規制という2パターンの交通規制を実施し、渋滞調査を行った。

渋滞調査の結果を踏まえ、道路管理者及び関係機関との調整を行い20時からの交通規制を行える事になった。

また、交通規制を施工区間内にあるインターチェンジ部を利用して2班体制で行うことにより交通規制時間の短縮に努め、施工方法についてもアスファルト乳剤を改質乳剤に変更し養生時間の短縮を行った。

4. おわりに

今回工事を受注した段階では関連業者などがまだ不明な段階であり、現場状況の把握などに時間を要しました。

施工内容に特化したものではありませんが、供用中の交通量の多い主要幹線道路を安全にそして迅速に全工区が同時に施行する事が必須でありました。

事前準備段階から検討を重ねてゆく中でコミュニケーションも図れ、円滑な施工環境を整えられたと考えます。

やはり、常に現場状況を把握し問題の把握から対処までをいかに的確にそしてスムーズに行えるかが時間・期間を制約された工事には重要だと考えさせられました。